重要テーマ③

環境に配慮した取り組み

重視する理由（課題認識）

近年、地球温暖化など環境問題が深刻化しており、大量生産・大量消費・大量廃棄を前提にした社会システムやライフスタイルを見直し、持続可能な開発を進めていくことが求められています。
企業への社会的要請も急速に高まる中、オリコはコアビジネスで培った事業ノウハウの活用や新たなビジネス機会の創出などによって、低炭素・循環型社会の実現に向けた取り組みを進めています。

SDGsとの関連性

低炭素・循環型社会の実現

2019年度の主な取り組み

再生可能エネルギー分野の個品割賦商品の利用促進

パリ協定で定められた目標を達成するためにも、再生可能なエネルギーの利用拡大が世界的な課題となっています。オリコは太陽光発電システムや蓄電池などの導入の促進に資する商品・サービスを提供するとともに、EV（電気自動車）などの次世代自動車の拡大につながる商品・サービスの開発を進めています。

低炭素社会の促進に資する商品・サービスの開発

オリコでは、お客さまの幅広いニーズに応える多彩な商品ラインアップの中で、ecoソーラーローンをはじめとする低炭素社会の実現につながる商品・サービスを提供しています。引き続き、低炭素社会の促進に資する商品・サービスを推進し、ステークホルダーの要請に応えていくとともに、今後も環境に配慮した商品・サービスの検討、開発を進めていきます。

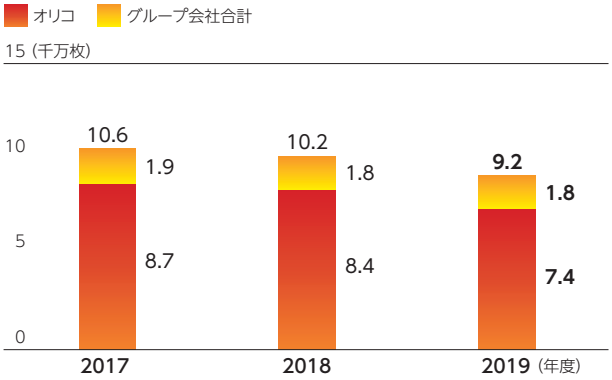
ペーパーレス化の推進

ペーパーレス化への取り組みは、CO_2排出量削減につながります。ペーパーレス化の推進に向けてオリコグループでは、コピー用紙の使用を必要最小限に抑えています。

その結果、2019年度のコピー用紙購入量は約9.2千万枚（前年度比10%減）となりました。

現在は、オペレーション業務のRPA化の拡大やカード利用明細書の電子化を進めています。また、Webクレジットの拡大とオリコグループ全体のペーパーレス化を推進し、事務プロセスの変革を進めていきます。

コピー用紙購入量の推移



企業活動に伴うエネルギー使用量の削減（麹町本社ビル、本社別館、鶴ヶ島ビルなど）

オリコでは、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）」「埼玉県地球温暖化対策推進条例・目標設定型排出量取引制度」の対象事業所としてエネルギー使用量およびCO_2排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

本社別館をはじめとする自社ビルでは、LED照明への切り替えや空調設備機器の高効率タイプへの更新、窓用高断熱フィルムの採用など、ライフサイクルコストの思想に基づき、環境負荷に配慮した設備改善を計画的に実施しています。

Close Up

日本初の“個人向け太陽光リフォームローン”を資金使途としたグリーンボンドの発行によって環境関連事業の拡大をめざす。

昨今、環境問題に対する企業の取り組みが重視され、ESG投資への関心が高まる中、グリーンボンド市場も年々拡大しています。オリコは、グリーンボンドの発行によって資金を調達し、その資金を使って太陽光関連ローン事業を強化することで再生可能エネルギーの普及に貢献します。

社会課題

気候変動対策として求められる再生可能エネルギーの普及

近年、地球温暖化によって異常気象が深刻化する中、2015年には国連サミットでのSDGsやCOP21でのパリ協定が採択されるなど、世界的な環境意識が高まり、企業にとっても大きな課題となっています。

こうした背景から、金融サービスの分野では、ESG投資の一種であるグリーンボンド市場が世界的に急拡大しています。グリーンボンドは、企業や自治体がグリーンプロジェクト※に必要な資金を調達するために発行する債券です。オリコは、同債券の発行によって資金調達の多様化を進めるとともに、調達した資金で太陽光関連ローン事業を強化し、地球環境の保全や再生可能エネルギーの普及をめざしています。

※グリーンプロジェクト…再生可能エネルギー事業、省エネ建築物の建設・改修、環境汚染の防止・管理など、環境改善効果がある事業です。

オリコの取り組み

個人向け太陽光リフォームローンを対象にしたグリーンボンドを発行

オリコは、2019年4月に国内市場において公募形式によるグリーンボンドを50億円・5年債で発行しました。最大の特徴は、本グリーンボンドによって調達する資金を太陽光発電システムや蓄電池、エコキュートなどの省エネルギー設備に関する個人向けリフォームローンに活用することです。また、個人向けの太陽光リフォームローンを対象としたグリーンボンドは、日本初となります。

本グリーンボンドの適格性評価については、第三者評価として、株式会社日本格付研究所から「JCRグリーンボンド評価」の最上位評価である「Green1」の予備評価を取得しました。また、投資家からも事業の環境改善効果のほか、資金調達や管理状況の透明性が評価され、今回のグリーンボンドの発行に対し、10社の投資表明をいただくことができました。

本グリーンボンドの概要

発行年限	5年
発行額	50億円
発行時期	2019年4月
引受会社	みずほ証券 野村證券

GreenBond Platform

JCRグリーンボンド評価の最上位評価である「Green1」を取得

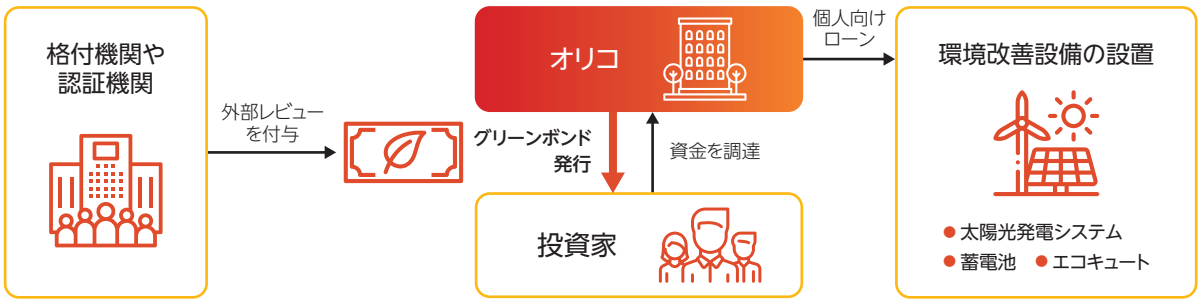
今後の展望

外部の高評価を生かして新商品・サービスの開発へ

当社では、以前から環境保全に寄与する事業として太陽光パネルやオール電化など、個人住宅の省エネ化を図る設備の設置促進に注力してきました。今回のグリーンボンドの発行が可能になったのは、こうしたノウハウによるものです。グリーンボンドは、資金使途と環境課題解決が直接的に紐づいていることから、環境問題に関心を持つ投資家からの投資喚起につながり、事業の安定性をより高めることが可能になります。

今回のグリーンボンド発行に関わる一連のプロジェクトで得た知見を生かして、今後も、オリコらしく環境に貢献する事業、商品・サービスの開発を進めていきます。

発行スキーム



VOICE 社員の声

ポイントは「投資家に受け入れられる価値をつくること」でした

財務部 渉外チーム　中澤 芳貴

私が所属するチームで新しい取り組みに向けたプロジェクトが始まったのが、1年半前のことでした。そこで話題に上ったのが、初めての個人向けローンを対象としたスキームでした。

早速、時代のニーズや債券市場の流れを見渡し、会社の方針とも合致する点を模索しながら検討を進めました。最も重視したのは「投資家に受け入れられる価値」でした。その理由は、ESG投資が拡大している昨今、投資家の皆さまはグリーンボンドの資金使途に関心をお持ちで、「太陽光リフォームの個人向け債権に資金を紐づけることに価値がある」と考えたからです。

お手本となる前例がない中、システム的な課題の克服などに苦労しましたが、結果的に多くの投資表明をいただき、嬉しく感じています。

グリーンボンド発行は継続性も問われてきますので、来期も良い準備をして良い商品を出せるよう努力したいと思います。